



座々沢 (作図)

この沢は前半は暗くコケむした感じであるが、後半は

ゴロ口状を約一〇分歩いて最初の砂防ダムに出会う。それからなんとゴロ口状と砂防ダムのくり返しが一〇回も続く(約二時間)。沢を半分過ぎた所でやっとF1四段が現われた。左岸を快適に直登。水量比一…一の二俣を左に入り、連続してF2、F3、F4と左岸を直登。F6はトヨ状滝となっている。F8は大きな岩壁で、左右二本の流れが落ちてゐる。右側の滝を登る事にし、最初右岸の大きな岩を利用して取り付き、滝をトラバースし左岸に渡り直登。浮石をつかまないと慎重に行動。F9、F10二段二〇段、F11一〇段で核心部は終わり、あとは小さなルンゼを登り、ヤブこぎ約三〇分で登山道に出る。

滝が続きすべて直登できる。

(タイム)

出合八・四〇―二俣一一…〇五―沢終了一二…三〇―
登山道一三…〇〇

座々沢

一九七九年六月二十四日

◆天気(晴)

大平部落から少し登った所にかかる橋のたもとに車を出発。長倉沢分岐までの間、橋の跡と取水口、砂防ダムのほかはなにもない河原が続く。二時間弱で長倉沢分岐へ。水量は長倉沢が座々沢の約倍量である。ここから砂防ダムの連続。八個のダム、三〇段位のチョックストーンの滝、小さなナメ、更に砂防ダムを一つ越えるともた単純な河原となる。カレ沢を右手に見て間もなくF1四段が現われ、沢の分岐となる。水量は左俣の方が多いが、右俣に入る。F2は三〇段三段の滝である。ホールドは充分ですべて直登できるが、望木君は初めてであるので、下段の二〇段はザイルを使う。三段滝を越え

ると右手よりスラブ滝が落ちている。F5四折をすぎるともう沢もおしまいである。右にヤブをこいで登山道を目指す。

(記・五)

(タイム)

橋七・四〇―長倉沢分岐九・二五―沢終了一四・一〇

渋川

一九八〇年九月十四―十五日

◆九月十四日(天気・晴時々曇)

海上沢に続いて渋川に入る。初めは河原歩きである。河幅も広く意外と進まない。所々に中洲がある。二俣かと思ひメモをとるとすぐ合流して中洲とわかる。一時間三〇分程歩くとゴロ状になり、チョックスストーン滝が出てきた。捲いていくので時間をとられなかなか進まない。二俣に出た。右の方が水量が多いが、地図、川床の様子からみて左が本流である。本流に入るとすぐにF1三折ナメ滝とF2上部が傾斜のゆるいナメ滝となっている二段の滝。F1には右岸より小沢が滝となつて入っている。



渋川・F5



渋川・F11